

食 品 ロ ス 削 減 対 策 特 別 委 員 会 研 修 会 報 告 書

墨田区議会基本条例（平成３０年墨田区条例第４６号）第２３条第２項の規定により開催した食品ロス削減対策特別委員会における研修会について、下記のとおり報告する。

令和４年８月２６日

墨田区議会議長
木 内 清 様

食品ロス削減対策特別委員長
はねだ 福 代

記

- 1 開催日時
令和４年８月２６日（金） 午前１０時１５分から午後０時０３分まで
- 2 開催場所
第２委員会室
- 3 出席委員氏名
はねだ 福 代 あ べ きみこ 山 下 ひろみ
坂 井 ひであき 坂 井 ユカコ 井 上 ノエミ
しもむら 緑 は ら つとむ 田 中 邦 友
おおこし 勝 広
- 4 講師氏名
母子生活支援施設
ベタニヤホーム施設長
伊 丹 佳
- 5 目的
食品ロス削減対策特別委員会における調査に資するため、母子生活支援施設ベタニヤホームから食支援パントリー事業についての説明等を聴取する。
- 6 内容
(１) 食支援パントリー事業（アウトリーチパントリープロジェクト）について
(２) 現状の課題や行政に求めることについて
(３) 意見交換（質疑等）
- 7 概要
裏面のとおり

研修会概要

- 1 食支援パントリー事業（アウトリーチパントリープロジェクト）について
伊丹氏から、アウトリーチパントリープロジェクトアクションの概要、背景と目的、ロードマップ等について説明があった。
- 2 現状の課題や行政に求めることについて
伊丹氏から、現状の課題や行政に求めることについて説明があった。

3 意見交換（質疑等）

◎委員（井上ノエミ）

墨田区でもフードパントリーをもっと広げていく必要があると思います。

ただ、心配なのは、継続的に食品を集められなかったら、逆に利用者の方を失望させてしまうことです。始める以上は定期的に食品を確保できるルートがないと、少し難しいかと思います。これまでこのような問題があったのか、その場合にどのように対処してきたのか教えていただきたいと思います。

また、これからフードパントリーを始めたいと考えている方に、何かアドバイスがあればお伺いしたいと思います。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

ちゃんと確保できるかどうかという点は、私も非常に大きい課題だと思っています。メーカーからダイレクトに送ってもらうとか、富山の農家の方からお米を送ってもらうたりという個人的な寄付もあったりして、そういった善意をどうやって探していくかということが、配れる食品の量を一定にすることにつながっていくと思っています。

多くの善意のある方と全国的なネットワークを組んでいく。その中で、食料を配布することに関してはこの墨田区を核にして、小さいネットワークで顔の見える関係の中で配っていくことによって、何とか困窮という問題を解決していくのが、今考えているところです。我々としては、食品ロスよりもむしろ生活困窮対策ということで、食品をどれだけ集めていけるか。一定量を確保できるかということが非常に重要だと考えております。

これからパントリーを始められる方に対してですが、実は口コミって重要で、あまり初めからホームページで告知したり、SNSで周知してしまうと、たくさん人が集まってしまう。そうすると、配るものがなくなってしまう。最初は二、三人しか来なくても、徐々に広がっていくので、最初は口コミでやっていくことが大事だと考えています。

◎委員（山下ひろみ）

区内の児童館との連携強化を図ることが課題だということで、現在、墨田区でどれぐらいの児童館と連携を図っているのかと、これから全館との連携を目指していくのかを教えてください。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

今のところは3館と連携しています。今後、全ての児童館に対して食料を提供できるかというと、やはりそうではありません。最近、ある児童館から、「フードドライブをやりたい。集まった食品をベタニヤホームで引き取ってもらえるか」という相談がありました。配るだけではなくて、集めてうちにくれるというやり取りもあっていいなと思っています。

◎委員（あべきみこ）

現在、どのくらいの方が利用されているのでしょうか。口コミで広げているということですが、どのくらいの頻度で食料を差し上げる機会を設けているのか教えていただければと思います。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

計画では夏休み、冬休み、春休みの前にやろうとなっています。そのぐらいの頻度でない

と、こちらも人数を用意できないからということだったんですが、今はニーズがありますので、毎月やっています。

人数についてですが、一番最初のときに集まった世帯は8世帯でした。アフターケアの退所者ではなくて、あくまでも地域に暮らしている方です。次回は、ちょうど明日あるんですけども、今のところ申込みは15世帯ぐらいだったと思います。1年間で大体2倍ぐらいになったというところでしょうか。

◎委員（坂井ユカコ）

運営の資金繰りについてですが、今回補助金を受け取られたということですが、これを続けていこうと考えているのか伺います。また、規模をどこまで広げていくのか。ベタニヤホームは墨田区内ではなく、区外にも拠点があるかと思いますが、そこでもやっていく計画があるのか教えていただきたいと思います。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

まず、規模を広げるかどうかについてですが、今のところそれは考えていません。社会福祉法人が実施するパントリー事業のモデルをつくれたらいいなと思っています。東京都社会福祉協議会の中に、こういう社会福祉法人の公益的な活動を取りまとめている委員会があるんですけども、毎年報告会を開いているんです。その中で、今年度末か来年度、我々の取組を発表したいと考えています。

資金繰りについてですが、基本的に公益的な活動をするとなりますと、施設からは出せないんですが、法人からは出せるようになるんです。そんなに大きな金額ではなくて、恐らく何十万円だと思います。それ以外のものに関しては、もうとにかく助成金を頼りに、いろいろ調べています。

今年度は大体500万円、助成金をもらうつもりで予算化しています。ただ、もらえるかどうかは分からないので、足元が危うい内容とは思いますが、一応、資金繰りとしてはそのように考えています。

◎委員（しもむら 緑）

生活に困っている方々、社会的養護を必要とする方々の状況を見られてきたと思いますけれども、年々そういった方々が増えているのか、どう捉えられているかをお伺いしたいです。

あと、先ほど里親支援機関ということで、さらに産前産後支援機関ということも考えていらっしゃるということで、この辺をもう少し詳細をお伺いしたいと思うんですけども。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

社会的養護の課題が広がっているかどうかですが、ご存じのとおり児童虐待相談件数が20万件を超えたという状況の中で、確かに様々な課題は増えていると考えています。

我々現場で感じることは、うちに入ってくる利用者は、親1人、子1人というケースがすごく多いんです。これは少子化の影響だと思うんです。親1人、子1人でという閉じられた関係の中で破綻してしまうというケースが多いのかなと。

そういう状況で、第三者として我々がその施設の中、暮らしの中に入っていけるというのは非常に効果のあることだと考えているんですけども、簡単に親と子を分けてではなくて、一緒にいられたらいいと考えておりまして、母子生活支援施設、まだまだ使い道あるだろうと考えております。

それから、里親支援、産前産後支援についてですが、実はかなり前から墨田区子育て政策の部門ともやり取りをさせていただいていたんですが、コロナの影響で全く事業ができなくなってしまっています。

うちの職員は全員、母子生活支援施設では珍しいんですけども、毎年必ず23区のどこかで行われる養育家庭の体験報告会に出席することを義務付けていまして、4年前からずっと続けております。今後、ホスティング機関として展開していけたらいいなと考えていまして、墨田区に児童相談所ができれば一気に進むと思うんですけども、できないとなれば少しトーンダウンした形で、例えば里親の相談会をやるなどといった手はあると思うんですが、何とも難しい状況に入ってしまうなと考えているところです。

◎委員（はらつとむ）

我々の知り合いも、寄付を集めて、カップラーメンとかインスタント食品を袋詰めして配るということをやっているんですが、お米よりインスタントラーメンとかカップラーメンのほうが人気があるらしいんです。どうも調理の方法が分からないんじゃないかという話があって、米よりパックのご飯がいいみたいなのとも言われるそうです。例えば調理方法を教えてほしいとか、そういう要望は聞いていますでしょうか。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

そういった話は出たことはありませんが、その視点は非常に重要だと思っております。

例えば、期限が近い防災備蓄品などは、実はおいしくないんですよ。これをどうやっておいしくするかということを考えて、こうするとおいしく食べられるよと案内して配布したことがあります。そういうことも職員が伝えられないと、持っていつてもらえないんです。今後、そういった考えは必要だと考えています。

◎委員（田中邦友）

まず率直に、社会福祉法の改正に際して、今後、この問題について区は積極的に関わっていく必要があるんじゃないかと思っているんですが、この点について現状のお気持ちをまずお知らせいただきたいと思います。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

社会福祉法の改正、社会福祉法人の在り方そのものが問われている時代なんですよ。

我々のスキルを生かした支援を必要な人に提供することができるようにと考えたのが、まさにこのシステムでして、今後もこの食支援を続けていくことに、今のところぶれは全くございません。

このことについては、むしろ行政の皆様に対して、もっと積極的に情報共有をしていく必要があると考えております。

◎委員（田中邦友）

現時点で行政に望むものは何かということで説明を受けて、倉庫確保などいろいろございました。基本的にはまず民間でというのは分かるんですが、過渡的なことに対しては行政が支援を行っていく必要があるんじゃないかと思っています。

また、説明をいただく中で感じましたのは、フードドライブという専門のノウハウが必要な事業について、区内の中で連携協定を結べるような事業者があるのかどうか。身近な区内事業者との連携協定というのにも視野に入れていく必要があって、そのために区として何かできるのか、何ができないのか。また、何かしなければならないのか。そんなことも考えていく必要があるのかなと思いました。

そして、金銭面のことについても、軌道に乗るまでは官民一体となった取組が必要ではないか。そのことによって、初めて次のステージに進むことができるんじゃないか。その辺のことを総括的にお答えいただければありがたいと思います。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

今のところ、区内の事業者とのやり取りはあまりないんですが、今後、進めていきたいなどは考えております。

過去には大手コンビニエンスストアからお話をいただいたことがあるんですが、あまりにも規模が大きくて、受け入れられない量になってしまうのではないかという怖さがありまして、今の段階ではできないのでとお断りをしたということがあります。

今後、様々な食支援、あるいは子ども食堂とのつながり、この墨田区の中で困窮対策に取り組んでいる団体については、既にネットワークを構築してやり取りをしていますので、そこから広がっていけばいいなと考えております。

◎委員（おおこし勝広）

最近、セカンドハーベスト・ジャパンでもなかなか食材が手に入らなくなってきました。もしストックできるような環境があるんだったら、集められるだけ集めて保管しておきたいといった話もありました。要するに、集まった食材をしっかりと管理して、しっかりと配送できる環

境が、今より重層的にあったほうがいいのかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長（伊丹 桂）

本来、もっと食材の量があれば、困る人は少なくなるはずなんです。しかし、例えば、パンを百キロもらっても、配り切れない分はごみになってしまうんです。量があればいいというわけでもなく、しかしなくなってしまうと困る。ニーズが発掘できれば、量があっても対応できるんですけども、そのニーズを掘り起こすためにSNS等で周知をするとたくさんの人が来てしまう。そうするともらえない人が出てしまう。ニーズとのミスマッチが、常にあるものだというふうに思っています。

そこをどうすり合わせていくかは非常に難しいところで、多分まだまだこれからなんだろうなと私は思っています。

4 研修会資料

別紙のとおり